

令和7年度 赤穂市立赤穂小学校 学校評価報告書

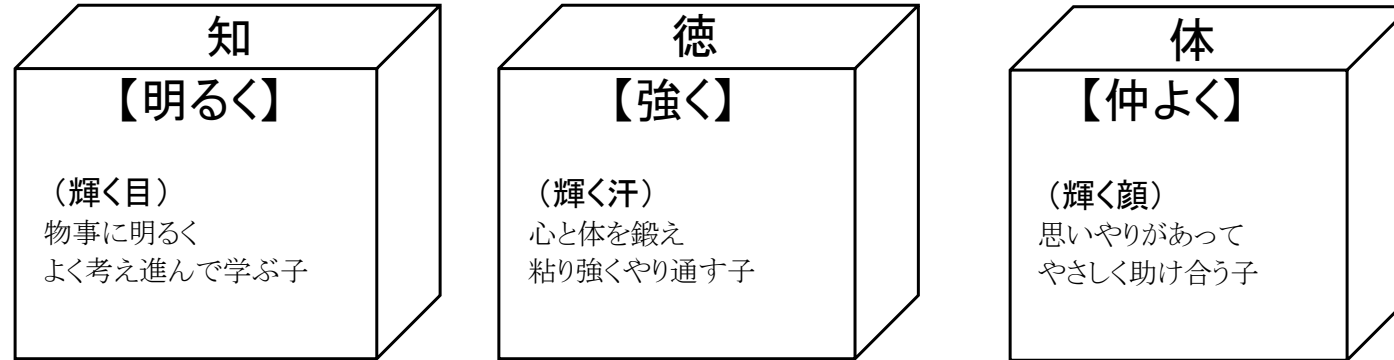
学校名 赤穂市立赤穂小学校

1 赤穂小学校の教育

(1) 教育目標

夢を育み、自他を大切に作る児童を育てる ～自己の成長と他者への思いやりを通じて、豊かな人間性を育む～

(2) 校訓



(3) 本年度の学校経営方針

<重点>

- 発達や学習の課題を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に向けた取組を進めるとともに、指導と評価の一体化を進め、確かな学力の定着を図る。
- 児童一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、学校行事等の集団活動を通して望ましい人間関係の形成、実践的態度の育成を図る。
- 児童が学習する基盤となる力を育むための体づくりを、授業や学校生活のあらゆる機会に設定し実践する。
- 重点目標
 - 1 児童のよさや可能性を伸ばし、自己有用感や自尊感情を高める指導の充実を図る。
 - 2 基礎・基本の確実な定着を図り、創造性や個性を伸ばす教育を推進する。
 - 3 夢や目標の実現に向けたキャリアプランニング能力の育成をめざす。
 - 4 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
 - 5 社会の変化に対応した教育活動を展開し、指導者としての専門性と実践的指導力の向上をめざす。
 - 6 道徳教育・体験活動を充実し、他者を尊重し思いやる「豊かな心」を育む。
 - 7 児童の生活実態を把握し、授業や生活の中での体づくりや環境整備に取り組む。
 - 8 学校・家庭・地域社会との信頼関係を確立し、地域への愛着や誇りを育む。
 - 9 学校業務改善に取り組み、児童と向き合う時間を積極的に確保する。

(4) 本年度の学校重点目標

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| ①学習指導要領に基づいた教育課程の着実な実施 | ⑩心の通い合う生徒指導の充実 |
| ②キャリア教育の充実 | ⑪防災・安全教育の充実 |
| ③特別支援教育の充実 | ⑫学校園所・家庭・地域との連携(コミュニティ・スクールの充実) |
| ④人権教育の徹底 | ⑬福祉教育・ボランティア活動の推進 |
| ⑤道徳教育の充実 | ⑭健康教育・食育の充実 |
| ⑥外国語教育・伝統文化に関する教育の推進 | ⑮情報活用能力の育成 |
| ⑦読書活動の推進 | ⑯教職員の専門性と実践的指導力の向上 |
| ⑧環境教育の推進 | ⑰学びの保障に向けた教育活動の創造 |
| ⑨「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進 | |

【総合的な学校関係者評価】

教職員が子どもたち一人一人の様子を丁寧に見取り、学校全体で支えている様子がうかがえ、安心感につながっている。また、個々の児童や家庭に寄り添いながら、振り返りや改善策を検討し、小さな変化や課題を大切に丁寧な支援が行われている。さらに、学校だけでなく、保護者や地域の方々とともに子どもたちを見守り、支えていく姿勢を大切にしながら教育活動が進められていることも評価できる。

一方で、自己評価結果において「B」となった項目については、次年度に向けた重点課題として位置付け、特に『『生きる力』を育む魅力ある学校づくり』や『家庭・地域との連携』の充実に継続して取り組んでいく必要がある。また、子どもたちの夢や可能性を育むためには、多くの地域の方々の協力を得ながら、より一層開かれた学校づくりを進めていくことが大切である。

加えて、保護者アンケートの回答率向上に向けた工夫や、学校と家庭との連携をさらに深める取組が求められる。学校運営や児童支援に関する情報共有についても、保護者や地域との丁寧な連携を図りながら進めていくことが望まれるとともに、特にいじめ対応については、PTA会長や学校運営協議会との適切な情報共有に努めながら、子どもたちが安心・安全に学校生活を送ることのできる環境づくりを今後も進めていただきたい。

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

観点	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
(実践の柱)	評価指標及び目標値(期待される姿)				
①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施	項目	基礎基本の定着のための指導方法の工夫や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・本校の研究主題「自分と向き合い、他者を尊重しながら共に生きる児童の育成」に向け、研究推進委員会を軸に児童が自らの成長を実感しながら主体的に学び続けることができるよう、授業改善を継続する。 ・県教委発行「ひょうごつまずきポイント指導事例集」や「学びのデジタルガイド」「学びのデジタルガイドプラス」等を活用し、児童のつまずきの解消を図るとともに、学年間・校種間の学習の系統性を重視した指導方法を工夫する。 ・校内研修等を通して、授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童と共有したり、自らの学びを実感できる振り返りを行ったりするなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
	指標	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に進めている。			
	項目	指導と評価の一体化を図っているか。	教職員アンケート【3.9】	A	
	指標	PDCAサイクルを重視した授業改善を図っている。			
	項目	キャリアプランニング能力の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.8】	A	
	指標	学ぶことや働くことの意義を理解する授業や、生き方を主体的に判断する授業を行っている。			
②「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進	項目	年間を通して、環境整備を意図的・計画的に行っているか。	教職員アンケート【3.7】	B	・無言掃除を徹底することで、汚したらきれいにする、自分達の場所をきれいに保つという意識を高め、学校や環境を大切にすることを育む。 ・これまでの教育活動を振り返り、「本校らしさ」が発揮されている取組を明確化する。また、本校の「特色」について、教職員間や学校運営協議会で話し合う場を設ける。 ・本校の校区にある豊富な教育資源をどの教科や単元で活用できるかを年間指導計画に位置づける。
	指標	当番活動、係活動等を充実し、過ごしやすい教室の雰囲気作りを行っている。			
	項目	実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制が構築されているか。	教職員アンケート【3.9】	A	
	指標	自治体及び関係諸団体と連携し、各学校園で作成している安全三領域(生活、災害、交通)に対応した研修や訓練を実施し、必要に応じて改善を図ることに努めている。			
	項目	特色ある教育活動の推進に努めているか。	教職員アンケート【3.8】	B	
	指標	特別クラブ・防災学習・地域学習(町探検・加里屋川・赤穂義士等)について、充実した活動を行っている。			
③生徒指導	項目	一人一人の内面理解に努め、人間的なふれあいを基盤とした生徒指導を推進しているか。	教職員アンケート【4.0】	A	・課題等を抱える児童の対応については、日常的に教職員で情報共有を行い、一人で抱え込むことなく、組織的に指導を行う。また、学校だけで対応しようとするのではなく、関係機関等と適切に連携を図る。 ・文科省「生徒指導提要」に基づき、児童一人一人に自己存在感を与え、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を設定していく。
	指標	毎日、学級にいる全ての児童に声をかけ、コミュニケーションをとっている。			
	項目	好ましい人間関係づくり、児童の心の居場所づくりに努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	生活アンケートを活用し、学級で起こる諸問題を解決している。			
④人権教育	項目	教育活動全体を通じ命や人権を大切にすることを育てているか。	教職員アンケート【4.0】	A	・人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的な行動力を育成する。 ・SNSを介したインターネット上の誹謗中傷や仲間外し等のいじめに対しては、児童のインターネット利用実態の変化を敏感に察知し、早期発見に努めるとともに、サイバー犯罪防止教室等を積極的に活用する。
	指標	児童は自他の命を大切にし、お互いを思いやる心が育っている。			
	項目	いじめ、インターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対する理解の促進を図っている。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	新たな課題に対応した人権教育資料を効果的に活用し、研修を行っている。			
⑤道徳教育	項目	全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・豊かな人間性を育てることで、自分を大切にするとともに、互いを思いやり、他者を自分と同じように尊重できる心を育むよう指導方法を工夫する。また、思いやりに満ちた人間関係を築くことを通じて、いじめの未然防止や差別・偏見の防止につなげる。
	指標	道徳科の授業を要の時間として、他教科や生活面でも児童の内面の理解に努めている。			
	項目	道徳の授業時数を確保し、指導法の工夫や研究に努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	週一時間の授業時間を確保し、カリキュラム通りに実践的な授業を実施している。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	・次年度、計画段階で授業時数が減少する中においても、子どもたちの「深い学び」が損なわれることのないよう、授業改善や学習内容の充実引き続き取り組んでいただきたい。
◎	○	・子どもたちが学校をより快適で過ごしやすい居場所と感じられるよう、掃除や環境整備について子どもたちとともに考え、主体的に取り組めるようにしていくことが大切である。また、加里屋川を年間を通して観察する学習など、地域とつながる継続的な学習活動の充実も期待される。
◎	◎	・生徒指導においては、子どもたちへの支援だけでなく、家庭との丁寧な連携も大切にしながら取組を進めていく必要がある。また、いじめ対応については、それぞれの背景や事情にも配慮しながら、丁寧かつ適切な対応を継続していただきたい。さらに、子どもたちが困ったことや悩みを安心して教職員に相談できる環境づくりを、今後も進めていただきたい。
◎	◎	・気持ちにくいネット上でのいじめへの対策として、情報モラル教育の充実を図るとともに、家庭におけるスマートフォン使用のルールづくりについても連携して進めていくことが大切である。
◎	◎	・「思いやり」の心を育てるため、異学年交流など、互いに関わり合いながら学ぶ活動を大切にしていきたい。

(A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑥特別支援教育	項目	インクルーシブ教育システム構築に関する教職員の専門性の向上に努めているか。	教職員アンケート【4.0】	A	・意思の表出やコミュニケーションの手段の一つとしての活用など、ICTを利活用した効果的な指導・支援に取り組む。 ・多様性を認め合い、支え合う学級づくり、すべての児童生徒が理解しやすいよう配慮したユニバーサルな授業づくり、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対応する授業改善を行う。
	指標	個別の教育支援教育や個別の指導計画を作成している。			
	項目	保護者、関係機関との連携を図っている。	教職員アンケート【4.0】	A	
	指標	配慮の必要な児童の支援として、保護者・関係諸機関と連携している。			
⑦福祉教育	項目	高齢者や障がいのある人などへの理解を深めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・体験を通して学んだことをその後の生活や学習にいかすため、学びの成果を発表したり、体験活動で見聞きしたことを各教科等の中で取り上げたりするなど、事後指導の充実を図る。
	指標	体験学習など多様な学習方法を取り入れて実践している。			
⑧環境教育	項目	自然や命あるものとのふれあいを通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・各教科や総合的な学習(探究)の時間等を利用し、SDGsにつながる環境問題やエネルギー資源問題等、地球規模の諸課題を自分事として捉えさせるため、実体験(観察・栽培・校庭の自然など)を通じた感動を重視する。
	指標	生き物の飼育・栽培・ごみの分別・食育・環境体験学習など、環境に関わる内容を意識して指導している。			
⑨国際理解教育	項目	自国や他国の歴史・文化について理解を深めているか。	教職員アンケート【3.8】	A	・異なる言語や文化をもつ人々と主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、発達段階に応じて、外国語指導助手(ALT)や地域の外国人等との外国語を用いたふれあいや対話、討論の機会を充実させる。
	指標	自国や他国の歴史・文化にふれ、ALTを交えた授業を構成している。			
⑩情報教育	項目	ICTの積極的な活用を進めているか。	教職員アンケート【3.8】	A	・学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力(情報モラルを含む)」の育成を図るため、ICTを用いた各教科等における学習活動の充実を図る。
	指標	電子黒板やタブレット等を活用した授業づくりをしている。			
	項目	情報モラルの育成やメディア利用についての家庭でのルールづくりに努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・県教委発行「ひょうごGIGAワークブック」等の活用を通じて、情報社会におけるルールやマナーの習得、インターネット利用に当たっての危険の回避や情報セキュリティに関する知識の習得等、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育に取り組む。
	指標	各学年に応じたメディアリテラシー学習を学期に一度行っている。また、ネットトラブルに関する新しい情報を学年通信などで家庭に発信している。			
⑪健康教育	項目	生活習慣の育成、感染症防止に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・国のマニュアル「感染症の解説」「学校の新しい生活様式」に基づき、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症における予防対策を引き続き正しく理解させる。
	指標	学校生活の中で子どもの行動・発言に対して適切な指導を行っている。			
	項目	運動習慣の定着を図るための指導の工夫・改善に努めているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・運動習慣の定着を図るため、学校行事や業間休み等、教育活動全体を通じて運動遊び・体育・スポーツ活動を継続的に取り入れる。
	指標	朝活動で体づくり運動を継続して行い、子どもが熱中できる体育の授業づくりに取り組んでいる。			
⑫防災教育	項目	充実した防災教育が実施されているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・児童が災害時に身を守る行動や対策等がとれるよう、地域の災害特性や発生が予想される災害の種類に応じて様々な場面や時間帯での災害の発生を想定したケーススタディを行うなど、実践的な防災教育を実施する。
	指標	防災教育読本「明日を生きる」等の活用を行い、各教科や体験活動等を通して、災害から自らの生命を守るために主体的に行動する力を育成している。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	○	・支援が必要な子どもたちへの対応の充実に向け、関西福祉大学など地域の人的資源の活用についても検討していくことが望まれる。また、一人一人の実態や特性に応じた丁寧な支援を今後も継続していただきたい。
◎	◎	・デイサービス訪問などを通して高齢者と関わる機会を設け、相手を思いやる心や福祉への理解を深める取組を進めていくことが望まれる。
◎	◎	・各学年で野菜や花などを育てる体験活動を通して、自然や生命を大切にすることを育てていくことが望まれる。
◎	◎	・異なる文化や価値観に触れる活動を通して、多様性を尊重し、相手を理解しようとする態度を育てていくことが望まれる。
◎	○	・ネットトラブル防止に向けた指導や注意喚起を引き続き丁寧に行うとともに、タブレット活用時のルールづくりを進めながらICTを効果的に活用していくことが望まれる。また、ICT活用を進める中においても、紙に書く活動など、基礎的な読み書きの力を育てる取組を大切にしていかなければならない。
◎	○	・遊びの中に運動を取り入れたり、休み時間に「みんなでなわとび」などの活動を企画したりすることで、子どもたちが楽しく体を動かす機会を充実させていくことが望まれる。また、睡眠や食事など基本的な生活習慣について、引き続き家庭と連携しながら取り組んでいくことが大切である。
◎	○	・様々な状況を想定しながら、自ら考えて適切に行動できる力を育てていくことが大切である。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	項目	評価指標及び目標値(期待される姿)			
⑬家庭と地域との連携	項目	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか。	教職員アンケート【3.9】	A	・学校運営協議会と連携を深め、保護者や地域の人々の意向を学校運営に反映する。また、地域行事への保護者参加を積極的に呼びかけ、学校・保護者・地域のつながりの中で児童を育む意識を高める。
	指標	学年便りや各種お知らせ文書を分かりやすく丁寧に作成している。			
	項目	地域人材や地域教材の活用に努めている。	教職員アンケート【3.8】	A	・児童が多様で幅広い学習活動を行うため、地域の方、大学や企業等の関係者、地域の行政機関や施設等の関係者による特別授業や講座等を体験活動等に積極的に取り入れる。
	指標	外部講師や保護者・地域人材を活用した学習活動に積極的に取り組んでいる。			
項目	家庭や地域との連携・協力は図られている。	教職員アンケート【3.5】	B	・児童の努力や成果等、よさを伝える連絡を学校から家庭に発信することで、互いに相談しやすい関係性を高める。	
指標	連絡アプリや電話等を活用して、保護者と密に、また日常的に連絡を取り合うことができています。				
⑭資質・指導力の向上、研修の充実	項目	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができています。	教職員アンケート【4.0】	A	・子どもに対する愛情と責任感をもち、児童の成長・発達・家庭環境等についての理解を深め、温かくゆとりのある心で接するよう努める。
	指標	服務規律を点検し、心ふれあう職場づくりに努めている。			
	項目	専門職としての力量をみがく、主体的な研修と実践が行われている。	教職員アンケート【4.0】	A	・自らの職責やキャリアステージに応じた専門的知識・技能の習得をめざし、管理職・教員資質向上指標や研修履歴を踏まえ、計画性をもって主体的に研修に取り組む。ICTを効果的に活用した授業展開や特別な配慮や支援を必要とする児童への対応等、直面する様々な課題への対応能力の向上や信頼される教職員としての倫理観の涵養に努める。
	指標	自主的に研修会に参加したり教育書を読んだりする等、指導力の向上に向けて取り組んでいる。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	・学校の取組や子どもたちの様子について、地域へ積極的に情報発信していくことが大切であり、学校だよりの地域回覧などについても検討していくことが望まれる。
◎	◎	来年度の教育課程の見直しを通して、教職員が「ゆとり」をもって教育活動や研修に取り組める環境づくりを進めていくことが望まれる。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。
A: 達成した…4ポイント B: ほぼ達成した…3ポイント C: あまり達成できなかった…2ポイント D: 達成できなかった…1ポイント
※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。
※達成状況で、評定点数が「3.6以上」をA、「2.8以上3.5未満」をB、「2.8未満」をCとしている。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

・学校評価(保護者アンケート)の回収率向上に向け、デジタルと紙面の両方を活用するなど、より多くの意見を集める工夫が求められる。また、ICTやタブレット活用については、その利点を生かしながらも、アナログとの適切な使い分けを意識した活用を進めていくことが大切である。